

先取り初詣 2020



2021 年 1 月

旅のチカラ研究所 植木圭二

年末に「先取り初詣」に神奈川県秦野市の出雲大社相模分祠に行ってきた。それは正月を迎える準備ができた神社仏閣を大みそかの前日に参拝するもので、友人と 10 年ほど前から毎年実施している恒例行事だ。

■年末なのに初詣

先取り初詣を始めたのは 2011 年の年末で、私が 55 才の時だ。初詣と称しているが、12 月 30 日という日程がミソで、あくまでも“先取り”である。大晦日の前日にはほとんどの神社仏閣では正月の準備はできているが、参拝客はほとんどいない。それが翌日から大混雑になるのが通例で、実にねらい目の日になっている。

そしてこのイベントの特徴は長距離を歩くことで、フルマラソンの距離 42.195km を意識して行程を組む。それは“死に行く覚悟”、そう 42195 ということで辛いことは百も承知で実施することになっている。

その第一回目は、東京の有名寺社巡りをするために始発電車で浅草に行って浅草寺を皮切りに寛永寺、神田明神、湯島天神、靖国神社、目黒不動などを歩いて巡って最後は川崎大師まで歩いた。その後も鎌倉 48 寺社巡り、成田山新勝寺、大宮氷川神社、大山阿夫利神社、秩父神社など、どれも死なないまでもある程度の覚悟を持って毎年 12 月 30 日に歩いた。

いつも一緒に行くのは友人の鎌仲だ。私のかつての仕事仲間で今は旅友・飲友で、今年も 12 月になって場所やコースを相談していた。

今年の先取り初詣の場所として、秋に妻と訪れた神奈川県秦野市にある出雲大社相模分祠は、その品格や雰囲気がい好きだったので是非行きたいと彼に伝え、直ちに決まった。そして国道 246 号をコースの基本にして約 40km を歩くために集合場所を相鉄線の大和駅にした。

■大変な天気

家を出ると、驚いたのは生温かい空気だ。本日は午前が雨、午後からは大寒波が来るという天気予報だが、朝のこの暖かさは一体何だろうか。

大和駅で集合し歩き始める。私がウォーキングでよく使っている泉の森公園を歩いていると、まだ薄暗いのにラジオ体操の音楽が聞こえてくる。時計を見ると 6 時 30 になっている。

国道 246 号に出てしばらく歩き、座間市から海老名市に入る頃には雨がポツポツと降り始める。予報どおりの雨で、しばらく降るのが分かっているので早めに雨具を着る。

雨は予想していたが、予想外なことが起きた。

私の足の裏が痛くなってきた。足が着地する際に足の指の付け根の部分に負荷がかかり痛くなっている。私にしては珍しいことだが、靴下を二重にしておけばと後悔する。

雨は次第に強さを増してきて、道路から離れた歩道を歩いている私たちに大型トラックの大きなタイヤが跳ね飛ばした水しぶきが容赦なく振りかかってくる。雨具も防水の靴もあまり役に立っていないようだ。

まだ歩き始めて 2 時間、やる気は失せていないものの雨と足の痛さで結構追い込まれている。休憩を兼ねて朝食を食べる店を探し始めるがなかなか店がない。ようやく厚木の市街地に入ってきたので、レストランを見つけるものの準備中で開店まで 20 分もあるという。その後もなかなか店がない。

鎌仲は「厚木にはレストランもないのか！」と怒っている。このままでは厚木のレストランや厚木市民を敵に回しかねない。私は彼に「まあまあ、冷静に」などと言うものの、実は私も朝から何も飲み食いしていない。私の体も水分を欲しており、それも泡立っている小麦色のものだ。

市街地の真ん中に入ってきて、9 時を回ってファミリーレストランが開いていた。

■ビールがうまい！

店に入り、早速朝食と生ビールを頼む。ウエイトレスの若いお姉さんは「朝からビールですか？」という顔をして注文を聞いていった。

生ビールが出てきて、乾杯をして飲む。これがとんでもなく美味しい。五臓六腑に染み渡ると感じる、まさしく至福の時だ。大袈裟な言い方かもしれないが、今まで飲んだビールの中で 1 位、2 位を争うと言ったの過言ではない。状況によってこうまで味が違うのかということを知り知る。

店に入って 1 時間半、朝から生ビール 2 杯飲んでしまった。あのウエイトレスもそろそろ出て行って欲しいという目をして私たちを見ている。

私たちの生気も戻ってきて、雨も上がり始めた。さあ、気合いを入れて出発だ。

■2 つの敵

休憩と朝食、特にビールの力は絶大で、短時間で厚木市から伊勢原市に入った。予定の行程の半分以上はこなしているはずだ。

雨は完全に上がり、その代わりに空気が冷たくなっている。これからは別の敵と戦うことになるそうだ。

その敵とは、まずは足の痛みだ。足の皮が破損しかかっている。筋肉痛ではないので休んでも治らない。これに加えて左足の膝の外側が痛み始める。まだ 20km を超えた付近というのに、余りに情けない。

そして寒さとの闘いだ。生温かい空気から雨になって、雨があがると気温は一気に下がる。天気予報ではここ数年で最大級の寒波が来ると言っている。

寒さについては防寒対策をして体を動かしてさえいれば体は温くなる。しかし足の痛みで体を元気に動かすことができないので、この2つの敵を同時に対応するのは難しい。

寒さよりも足の痛みが先行したので、今度は少し早めの昼食にするためにレストランに入る。

そこであと何キロか調べようとしてスマホで Google マップを起動すると面白い場所が表示された。私たちの目的地は出雲大社相模分祠だが、似たような名前の出雲大社相模原分社という施設だ。嬉しいことに相模原分社は相模分祠の手前にある。そこで相模原分社に立ち寄ってから相模分祠に行くというルートをとることにした。足の痛みを忘れていた訳ではないが、どうせ途中だという判断からだ。それにしてもこの判断が後の私たちに大きく影響することになるうとは、この時には知る由もない。

■出雲大社相模原分社

国道 246 号の新善波トンネル手前から狭い道に入る。獣道（けものみち）のような細い道を降りていくと、どうも向かっている方角が違うように思えて、5 分程歩いてスマホを確認する。どうやら道を間違えたらしい。間違っていたらすぐに修正するのは傷口を広げないための鉄則で、決して深追いをしてはいけない。

直ぐに修正した。いや、修正したつもりだったが、ラブホテルが多くある一帯入ってきてしまった。地図では直ぐ近くに道があるはずなのに、たどり着いたのはラブホテルの駐車場だ。どうやら私たちの行きたい道はラブホテルの裏山の崖の上にあるらしい。

道を戻りラブホテル地帯を元来た方向に歩いていると、ラブホテルに入る車と何台もすれ違う。本日は 12 月 30 日だ、それでも頑張る人たちは頑張るのだろう。

スマホが案内する道に戻った。そしてしばらく歩き、結局は山一つ超えてしまった。さらに案内する道に行くが相模原分社の姿はおろか案内板もない。上り坂下り坂が交互に続き足の痛みは増してくる。

目的地は標高 237m の弘法山の頂上にあるらしく、足の痛みをこらえて、力を振り絞って頂上に登る。頂上は広場になっており鐘楼と弘法大師と書かれたお堂があるだけだ。出雲大社相模原分社という建物はあろうか、看板や標識さえもない。

広場にある案内板にもその文字はない。

細かく見ると GPS が示す場所はそのお堂になっている。ここに祀られているのが大國主（おおくにぬし）ならばここが出雲大社でもいいが、祀られているのは弘法大師だから明らかに違う。



<弘法山山頂のお堂 弘法大師の文字がある>

これは一体どういうことなのだろうか。

私たちには全く理解できず、色々調べたが結局、山頂を後にすることにした。

このことについて下山して調べても、何も手がかりがない。Google マップの記載ミスか、山頂のお堂にその役割を一時期に一部の人が持たせたのだろうか。結局分からない。

■出雲大社相模分祠

今度は出雲大社相模分祠を目指して歩き始める。周囲が見渡せる高台があり、登って行くと標高 243m の権現山山頂まできた。立派な展望台が建っている。

そしてまた道を間違えたい。やはりこのままいくと傷口がさらに広がりそうなので再び引き返すことにした。ようやく目的コースと思われるルートに沿って山を下り始める。それにしても道を間違え、戻り、遠回りをするなどして時間も距離も今年はロスが多い。

立派なゴミ焼却施設「はだのグリーンセンター」がある。スマホを見るとあと 3.4km で 44 分かかると出ている。足には相当ダメージがきているので、44 分というのが限界かもしれない。

その足の痛みをこらえ、騙しつつも住宅地を抜けて、目的の出雲大社相模分祠にたどり着いた。既に時間は夕方 4 時、遅く着いたために神社は正月を迎える準備が全て整い終えたようで、何人かの参拝客もいる。



< 出雲大社相模分祠 >

ここは正真正銘、大国主を祀った出雲大社だ。

記紀（古事記と日本書紀）によれば、大国主は日本を創った土着の神とされている。ところが“天孫降臨”で高天原に降り立った天照大御神に“国譲り”を要請され、大国主はこれを受け入れ、“この世”である日本の国を明け渡して“あの世”の主になった。要は殺されたということなのだろう。

その天照大御神を祀っているのが伊勢神宮で、その他大勢の神道の神社は伊勢神宮を頂点としている。しかし出雲大社は大国主を祀るために建てられた特別の神社なので、伊勢神宮の下ではない。

それゆえ参拝の作法も特別で、普通の神社は二礼二拍手一礼で参拝するが、出雲大社は二礼四拍手一礼で参拝する。もちろんこの相模分祠でも二礼四拍手一礼で参拝した。

そういう作法で参拝すると参拝者の私も特別扱いをされているような気分になり、何故か優越感を感じる。人はこの特別扱いに弱い。

秦野駅まで歩いて行く道を尋ねるために神社の巫女さんに声を掛ける。運だめしを兼ねて何人かいる巫女さんの中でも一番可愛い子を選んだ。おそらくは女子高生のアルバイトだろう。私たちが 40km 歩いてきたと言うと目を丸くして、「頑張ってください、良いお年を！」と笑顔で応援してくれた。運だめしは吉とでたようだ。

駅までの道のりは徒歩 20 分くらいだというが、私の足はもはや限界で、30 分以上かけて到着する。日も暮れて寒さも増して、体は温かい温泉を欲している。

■♂（しめ）の温泉

歩き旅の♂はやはり温泉だ。

最後の力を振り絞って秦野駅までやってきて電車に乗って鶴巻温泉駅で降りる。当然階段の上り下りは苦痛なのでエレベーターを利用させてもらった。足が思うように動かないので高齢者や身体障害者の気持ちが分かるような気がしてくるから、こういう体験も貴重なのかもしれない。

鶴巻温泉駅近くのお目当ての立ち寄り湯「弘法の里湯」は、本日は年末なので 17 時で閉館と書かれている。最後の力を振り絞って来たのに温泉に入れないと残念を通り越して無念である。無念は残念より悔しさを表す言葉だと、どこかで聞いたことがある。そんなことはどうでもいいが、とにかく残念、無念だ。

他に日帰り入浴施設がないか地元の人に聞こうとするがなかなか聞く人が現れない。ちょうど駅前の交番にお巡りさんが立っている。ここはひとつ日本の誇る交番に頼ることにしよう。

日本発祥の交番は日本の警察が誇る出先機関で、日本の治安の良さは交番があるからだと言われている。地域に根付いた交番というシステムは外国でも高い評価を受けており、取り入れる国も多い。交番は明治維新から間もない 1874 年警視庁創立当時にできて、交替制で立番をするということで交番の名になった。

交番のお巡りさんは「この駅には、他に日帰り入浴施設はないですね」と言う。それでも地域に根付いた庶民の見方の交番は頼りになる。彼は「隣の駅ですが、東海大学前のスーパー銭湯がお勧めで、私もよく使っています」と言って、行き方、入場料、閉館時間などとても親切に教えてくれた。

お巡りさんお勧めの日帰り温泉施設「さざんか」に来た。もはや足が動かないので駅から 5 分の道のりは非常に遠かった。

温泉に浸かる。冷えた体にも、足の痛みにも、温泉は実によい。何よりも折れかけた気持ちには抜群の効能がある。

私は今まで温泉の泉質や湯殿が良いとか悪いとか評価こそするが、感謝したことはあまり無い。そして今、私は心の底から温泉に感謝をして本当にありがたいと感じた。温泉とはこんなにもありがたいものだったのか、感謝、感謝、そして感謝だ。

♂の♂はやはりビールだ。駅前の中華料理店に入ってビールを何杯か飲み干して、この旅を締めくくった。

■旅の記録

実施は 2020 年 12 月 30 日（水）の日帰り、その行程を以下に示す。

- ・ 5 時 30 分自宅を出発、大和駅まで歩き、友人と落ち合う
- ・ 6 時大和駅より泉の森公園を抜けて国道 246、9 時「ロイヤルホスト厚木栄町店」で朝食
- ・ 10 時 30 分出発し、国道 246 を歩き 12 時 30 分「くら寿司伊勢原店」で昼食
- ・ 13 時 30 分出発し、国道 246 新善波トンネル手前で国道を離れ、旧善波トンネルを抜け
- ・ 14 時 30 分弘法山山頂（出雲大社相模原分社）に到着、15 時権現山頂上、すぐに下山し
- ・ 15 時 10 分頃はだのクリーンセンター横を歩き抜け、秦野市内通過
- ・ 16 時に出雲大社相模分祠の到着、参拝後に秦野駅到着し、小田急で鶴巻温泉駅に移動
- ・ 17 時鶴巻温泉駅到着、電車で戻り東海大学前の「秦野天然温泉さざんか」に到着
- ・ 18 時 40 分さざんかを出て、駅前で夕食、21 時 30 分帰宅

総歩数は 61717 歩、約 48km になったが、後半は歩幅が小さくなっている所以距離はそれよりも少ないだろう。

総費用は 1 人当たり約 7250 円になった。詳細を以下に示す。

- | | | |
|-----------------|----------|------------|
| ・ 朝食（ビール 2 杯込み） | 約 2200 円 | ロイヤルホスト |
| ・ 昼食（ビール 1 杯込み） | 約 1200 円 | くら寿司 |
| ・ 立ち寄り湯 | 850 円 | 秦野天然温泉さざんか |
| ・ 夕食（飲み放題込み） | 約 2300 円 | 中華ダイニング粹 |
| ・ 交通費 | 約 700 円 | |